

# 手をつなごう2007

平成19年11月26日  
岡山県立東備養護学校  
支援部だよりNO. 23

## コーディネーター講座4開催

サポート事業で専門家チーム員としてお世話になっている、臨床心理士の安東節子先生に「心理発達検査について」ということでご講義をお願いしました。

知能検査・言語機能検査・実行機能検査・記憶検査・発達検査などについていろいろな検査をご紹介いただいた後、WISC - について少し詳しく説明していただきました。検査というと専門家がするものと思われることが多いと思いますが、分かりやすい言葉でのお話で、身近なものとして感じることができました。また、参加人数が多く、検査器具の数も少ないので実際に検査を試みることはできなかったのですが、検査器具に実際に触れたり検査用紙や解説書を見たりして検査の実際に少し触れることができました。

参加者のアンケートより抜粋してご紹介します。



### 参加者のアンケートより

#### 保育園

- ・検査に対し、受け身で、他機関で受けてもらうものと思っていましたが、正しいマニュアルに則れば自分でもできると伺い、意識が変わりました。また、実物や実際の方法などを伺い、子どもたちの苦手とする部分、不便なところが改めて分かった気がしました。

#### 幼稚園

- ・担任をしている子どもが病院で検査を受けています。いろいろな用具を見たり質問をしたりしながら子どもの強いところ、弱いところを調べることがよくわかりました。教員もできる検査だと伺い、心強く思いました。

#### 小学校

- ・検査について名前は知っていましたが、検査の器具やマニュアルなどは初めて見ました。自分ももう少し研修をして、自分でもしてみたいと思います。
- ・具体的な検査器具を見せていただき大変参考になりました。どんな物を使うのだろう、どんな問題なのだろうと思っていたことがはっきり見えました。先生の言われたように「教育に生かす」「いろいろな情報から総合的に判断するということ」を心に留めておきたいと思います。

#### 中学校

- ・「検査を受ける」ということは保護者にとって「レッテルをはられる」という恐怖感があり、とてもハードルが高いものです。その子の持っている特性や能力を知り、より適切な教育環境をつくるというもののようには思いますが、なかなかうまく保護者に伝えられず、もどかしく思うこともあります。実際の物に触れたことで以前より血の通った説明ができるような気がします。

#### 高等学校

- ・ほとんど知識がない分野なので勉強になりました。特別支援学校に通っている生徒以外でも発達障害の傾向があり知識を積み重ねる必要を感じました。

#### 特別支援学校

- ・今まで「心理発達検査」と聞くだけで尻込みしてしまいがちでしたが、安東先生のお話を伺い、身近なものとして感じることができました。検査の名前、内容を文字で見ただけでは難しそう…と感じていましたが、一つ一つ分かりやすい言葉で例を出しながら説明していただき、検査についての知識を深めることができました。実際の検査器具を見ること、解いてみる事ができたのもありがたかったです。検査となるとすぐに専門の先生にお願いと思ってしまいがちでしたが、自分でもやってみようかな…？と少し自信が沸いてきました。